

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://seaclub.power.co.jp/
E-mail:gyoren@power.co.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
TEL 087-825-0350
FAX 087-851-0699
J F 香川漁連

豊浜町、室本及び大野原の三漁協が合併契約書に調印!!

豊浜町漁協、室本漁協、大野原漁協の合併調印式が、平成 14 年 11 月 1 日 (金) 午後 2 時から、観音寺市の琴弾荘において、三漁協組合長ほか全役員と、来賓、関係者合わせて 60 余名の出席のもと、盛大に執り行われました。

室本・大野原・豊浜町漁協合併推進協議会の会長である小濱室本漁協長の挨拶の後、新組合の名称「西かがわ漁業協同組合」の命名者代表三名に感謝状が授与され、経過報告と合併契約書の朗読のあと、調印は、合田靖雄豊浜町漁協長、小濱福重室本漁協長、合田保大野原漁協長、及び立会人の高原豊浜町長、白川観音寺市長、平野大野原町長及び服部県漁連会長、田村信漁連会長の順に、合併契約書に署名捺印する形で行われました。



豊浜町・室本・大野原漁協合併調印式

調印後は、玉地県農林水産部長、白川市長及び服部会長の祝辞を受け、植村全漁連会長、大野参議院議員からの祝電が披露された後、合田靖雄組合長が決意表明し、高原町長の万歳三唱で滞りなく閉会しました。

この三漁協は、昭和 24 年に設立された豊浜町、箕浦、室本、花稻（後に大野原に名称変更）の四漁協のうち昭和 37 年 3 月に豊浜町と箕浦の合併による豊浜町漁協の設立を経て現在に至っており、組合員はノリ、ハマグリなどの養殖業や小型機船底びき網、定置網、刺し網を中心とした漁船漁業に取り組んできました。

三豊南部地区における漁協合併は、古くは昭和 40 年代にも活発に議論されましたが足並みが揃わずに頓挫し、その後平成 6 年頃からの議論を経て、平成

10 年 1 月 2 日に三豊南部六漁協が「三豊南部地区漁協合併推進協議会」を設置しました。そして鋭意協議を重ねるうち、一時は「県下 1 ブロック 1 漁協」のモデル漁協が実現するものと期待されましたが、一部の漁協から「時期尚早」との意見が出され、平成 12 年 1 月に六漁協による合併は見合わせることにしたものの、漁業情勢は益々厳しさを増してきたことから、水面下で新たな方向が模索された結果、平成 14 年 5 月 16 日に三漁協が「室本・大野原・豊浜町漁協合併推進協議会 (会長 小濱福重)」を設置し、以後協議会 2 回と組合長会 4 回を開催しました。この間、香川県漁協経営強化総合対策協議会の組織強化推進室 (室長 服部郁弘香川県漁連会長) が中心となって地元調整し、そして 9 月 18 日開催の三漁協組合長会で新組合の名称の公募、補償金・固定資産の取り扱い、職員の配置などについての合意を受けて、10 月 14 日に三漁協が合併のための臨時総会を開催し、それぞれ満場一致で合併関係議案を全て決議承認し、協議会設置からわずか半年余りという速さで、この度の合併調印に至った次第です。

本合併は、本年 4 月 1 日の土庄・家浦・甲生・大部漁協の合併、11 月 1 日の栗島・志々島漁協の合併に続き本年度 3 件目であり (昨年度は 3 件 7 漁協が参加)、規模は小さいが 3 市町にわたる広域合併は県内初で、本合併により県下の沿海地区出資漁協数は 43 となります。

合併後も、組合長、役員及び組合員の皆さんが一致団結して、漁協活動の活性化に努められ、健全経営に向けさらなる組織基盤の強化を図られて、来るべき広域合併に備えられるよう、大いに期待しています。

今後は、債権者への公告等所定の手続き後、12 月中旬には県に合併の認可申請をし、平成 15 年 1 月 1 日付けで合併となる予定です。

合併に伴い煩雑な事務が多々ありますが、今後も推進室が支援・指導をしていきます。

新組合の名称：西かがわ漁業協同組合

所在地：三豊郡豊浜町大字和田浜 1476 番地
(現 豊浜町漁協)

規模：正組合員数 102 名、准組合員数 49 名、

計 151 名
 販売取扱高 1 億円、購買供給高 2 百万円
 出資金 48 百万円
 (平成 14 年 3 月基準)

新たに合併推進協議会が設立される!!

大浜漁協と三崎漁協は、平成 14 年 1 0 月 2 2 日 (火) 午前 1 0 時から大浜漁協において、両漁協の全役員と香川県水産課担当職員、詫間町経済課長、組織強化推進室長ほか関係者 3 0 名が出席するなか、合併推進協議会を設立するとともに第 1 回協議会を開催し、合併の基本方針と平成 15 年 4 月 1 日を合併期日とすることが決議承認されました。

これまで、詫間地区の 6 漁協は、漁業の不振や組合員の高齢化・後継者不足など、漁協を取り巻く環境が一段と厳しさを増すなか、漁協基盤の強化が喫緊の課題であるとの認識で一致し、平成 10 年 6 月 2 0 日に「詫間町漁協合併推進協議会」を設立しましたが、協議を進める過程で合併条件が折り合わなくなり、平成 12 年 7 月 1 1 日に協議会は解散致しました。

しかし、今年に入り粟島漁協と志々島漁協が前記のとおり合併し、また詫間漁協と箱浦漁協が 9 月に合併推進協議会を設置したことなどに強い刺激を受け、合併機運が急速に高まったことから、役員会の決定、全員協議会での承認を経て、協議会設立の運びとなったものです。

この合併が滞りなく成就し、さらなる広域合併を目指されて地域の発展に末永く貢献していかれるよう、協議会の設立と運営に携わっている組織強化推進室としては、県や地元市町とともに今後とも全面的に支援・協力をしていきます。

協議会の名称：三崎・大浜漁協合併推進協議会
 会長：亀野大浜漁協長 副会長：三島三崎漁協長
 事務局：大浜漁協
 委員：2 漁協全役員 計 17 名
 合併予定日：平成 15 年 4 月 1 日

平成 14 年度全国資源管理推進会議 盛況のうちに終わる!!

資源管理型漁業の推進についての全国会議が、平成 14 年 1 0 月 8 日、9 日の二日間にわたり、高松市の県民ホールにおいて開催されました。

今年度の推進会議ではこれまでで最高の 3 0 2 名

の出席がありました。特に香川県の漁業関係者の出席が多く、1 1 6 名の方に参加していただきました。

会議冒頭に水産庁資源管理部管理課資源管理推進室の佐藤力生室長より挨拶がありましたので一部を紹介いたします。

「本会議は漁業者方々の自主的な資源管理型漁業の全国推進会議と称してきましたが、資源管理施策全体を含む会議として新たにスタートしました。このことは新たな資源管理に関する法律の制定、予算等の拡充が図られ、我が国における資源管理体制が大きく変革したことに対応したものです。昨年、漁業法の改正により広域漁業調整委員会が設置され、また、資源保存管理法の改正により、資源回復計画と一体的に講じる T A E 制度が創設されました。さらに、水産業協同組合法の改正により、漁協の業務の第 1 番目に資源管理が位置付けられています。資源回復計画については平成 1 6 年度までに 5 0 程程度の魚種のうち条件の整ったものから順次、策定に着手していく予定です。悪化する資源の回復は国民の関心が高い事項であり、また全国の漁業関係者が最大の関心を注がれた政策課題でもあります。本日は地元香川県の漁業者を始めとし、瀬戸内海関係の多くの漁業者の方々にも参加していただいております。このような多くの参加はこれまでの会議においては見受けられなかったことです。あらためて、資源回復計画第 1 号となった瀬戸内海のさわら漁業関係者の資源管理に対する熱意に対し敬意を表するものであります。この会議が新たな時代を迎えた資源管理体制化において具体的な成果をあげていくために、大きく寄与する会議となりますよう祈念いたしまして、ご挨拶に代えさせていただきます。」

また、香川県からは唯一の漁業者のパネラーである、県さわら流しさし網協議会の森朝征会長から「サワラ資源回復への取り組み」について講演が行われ、その後、全国各地の取り組みについてパネルディスカッションが行われました。



講演中の県さわら流しさし網協議会森朝征氏

今回、このように盛大な会議を香川県において開催できたことは、ひとえに、県内漁業関係者の方々の資源管理型漁業へのこれまでの努力と熱意の結果であると思います。今後も皆様の協力を得ながら、瀬戸内海での資源管理型漁業先進県として事業展開していくとともに、資源の回復、漁業経営の安定・向上に取り組んでいきたいと考えています。
(香川県農林水産部水産課 漁業・資源管理グループ 牧野弘靖)

香川県産ハマチ、カンパチのこれからの本格出荷を前に、一尾でも多く、一人でも多くの消費者に買っていただけるよう期待したい。



香川産ハマチを渡している嶋野組合長

試食会などで香川県産ハマチをPR

かがわぎょれんお魚キャンペーン開催

県漁連は、10月23・24日の両日阪神地区での香川県産養殖生産物の販売促進を図ることを目的に、大阪府と兵庫県のス - パ - で試食会のキャンペーンを行った。

このキャンペーンは「香川の観光ふるさと・さかな料理」・県魚「ハマチ」を主体とする県産水産物を活用してのPRを行い、ブランド化と消費拡大を目的とした事業の一環として、県漁連・(社)県水産振興協会が取り組んでいるもので、今年で2年目になる。

初日の23日は、大阪市内の関西ス - パ - 大和田店の店頭駐車場の一部を借り切ったPRで、午前11時30分生産者代表として、香川県かん水養殖漁業協同組合の嶋野組合長が「香川県の生産者は、消費者の皆さんに新鮮でおいしい、安全なハマチを始めとする養殖生産物を供給するために、瀬戸内海のきれいな海で日夜努力している。これからも、よりよい養殖魚を提供していくので安心して購入し、食べていただきたい。」との挨拶で開会した。その後香川県産ハマチを使っただけの新メニュー - 「瀬戸のハマちゃん焼」の試食会を行い、来店者に堪能していただいた。試食者からは、「あっさりしていて食べやすい、野菜といっしょに食べられるのが良い」「とにかく美味しい、今夜試してみたい」との意見が多く、手応えは上々であった。

また、今回のキャンペーンには、おさかなシャツも応援に駆けつけ「お魚ビンゴゲーム」「お魚名当てクイズ」などで、会場を大いに盛り上げ、一等の養殖ブリ(約5kg)を嶋野組合長から手渡された参加者は「うれしいの一声です、今夜は楽しみです」と興奮気味であった。

24日、西宮の関西ス - パ - 大社店でも同内容で開催し、大好評のうちに閉会した。

主な行事予定(11/1~11/30)

- 11月1日(金) 西かがわ漁協合併調印式
- 6日(水) 香川県漁連理事会
- 9日(土)~ 地産地消みのりと食のフェスタ(みろく公園)
- 10日(日)
- 13日(水)~ 香川県漁連監査会
- 14日(木)
- 17日(日) 全国豊かな海づくり大会(佐世保)
- 19日(火) 購買担当者会議
- 21日(木) 全漁連理事会
創立50周年記念式典・漁協運動功労者表彰式(東京)
- 21日(木)~ 主要市場懇談会(東京)
- 22日(金) ケイソウ類に関する研修会(水試)
- 21日(木)~ 全国おさかなまつり(幕張)
- 24日(日)
- 22日(金) 全国漁連・信漁連・指導連・漁済組合長合同会議(東京)
- 全国漁協代表者集会(東京)
- 29日(金) さわら資源回復研修会